基盤整備後の課題解決にスマート農業を活用（檜山農業改良普及センター檜山北部支所）

背　景

【今金町の概要】

○地域内の農地の多くが排水不良で小区画ほ場が分散しており、農作業の支障となっていた

○国営の基盤整備がH27から着工しており、R2末現在50%程度が完了している

○ほ場の大区画化等により、作業が効率化された

【地域の課題】

○高齢化に伴う農家戸数の減少や米価低迷等、多くの課題があり、早期の解決が求められる

○基盤整備後のほ場は、客土等により一部で収量・品質の低下や生育ムラが確認され、対策が必要となっている

**米価の低迷、労働力不足
後継者不足、手が回らない
基盤整備後の作付けは？**

普及活動内容

1　檜山北部管内の農業関係機関と一体になった活動の展開(H30～R2)

2　課題解決に向けた技術の提案と実証

【基盤整備後の生育ムラ解消の取組】

可変施肥技術の提案

センサーで生育を測定し、生育に合わせた施肥量を自動で散布

水稲では前年にドローンでのセンシングを行い、NDVIデータを元に基肥で可変施肥を実施

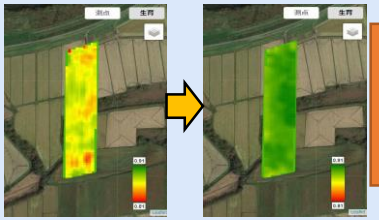
秋まき小麦ではトラクタに装着したCropSpecセンサーで測定しながら、可変施肥で追肥を実施

普及の成果

【具体的な成果】

○可変施肥による生育ムラの解消

1　水　稲



可変施肥により、生育のバラツキ、収量ムラが改善！

図1　生育ムラの変化（NDVI図、左R1.8月　右R2.8月）

表１　各地点の収量比較

区分	精玄米重 (kg/10a)		対比 (生育良区を100とする)	
	R1	R2	R1	R2
生育良区(R1)	420	518	100	100
生育不良区(R1)	406	541	97	104

2　秋まき小麦

表２　各地点の起生期茎数・収量比較(R2)

区分	起生期茎数 (本/㎡)	粗原収量 (kg/10a)	子実重			
			製品（2.4mm）(kg/10a)	生育良区比 (%)	製品率 (%)	蛋白値 (%)
生育良区	3,184	708	568	100	80.2	12.9
生育不良区	1,504	650	585	103	90.0	12.4

起生期の可変施肥（追肥）により、製品収量で同等となった！

【成果のポイント】

○　関係機関との役割分担、協力で多くの課題に取り組み、成果を情報共有し、全体に波及した

（連絡先：檜山農業改良普及センター檜山北部支所　TEL　0137-84-5514）